

海老名市立東柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第6回)

- 1 日時 令和5年2月28日(火) 16:15～
- 2 場所 海老名市立東柏ヶ谷小学校 ランチルーム
- 3 出席委員 芳賀敬子委員長, 橋本絵美里副委員長, 佐藤充明副委員長, 海野望委員長井徹委員, 柳下泰介委員, 瀬戸口壮委員, 塚原勲委員, 小池一美委員, 守谷美子委員, 佐藤孝男委員, 工藤真委員, 高橋典嗣委員, 小林丈記校長

4 会議の内容

(1) 小話タイムテーマ:「開校50周年記念事業でどのような準備(部会等)が必要か」

「記念誌」、「うさよん+1」という意見が挙がった。

来年度早々に「実行委員会」を組織し、準備を進めていく予定。

次回、(4月)の令和5年度第1回学校運営協議会に改めて話し合う。

(2) はじめに

芳賀委員長: 梅の花が咲き始める季節になった。3学期になり、グラウンドゴルフ大会、昔あそびが無事終わったことに喜びを感じている。ニュース等で不登校が増えていることをよく耳にするが、とても心配になる。子どもたちに寄り添える学校・地域・家庭でありたい。本日の議題にある「防犯モデル地区」については、じっくり準備を進めていきたい。市民レク・50周年に向けても皆さんと話し合っていきたいと思う。

(3) 学校長より

小林校長: 学校の状況について、健康面はコロナよりもインフルエンザの感染が多いです。学校教育活動も残すは1か月となり、子どもたちの気持ちは高揚している。学びのまとめの時期に入っている。

グラウンドゴルフ大会では子どもたちの楽しそうな声がたくさん聞こえてうれしく思った。子どもたちの感想からも地域の方への感謝の思いが伝わってきた。本当に実施ができてよかったと思っている。

2月にはCS朝会を行い、そこから2年生では「あいさつの木」という取り組みが始まった。外発的な動機付けに過ぎないが、あいさつの啓発には、とてもよい取り組みだと考えている。2月は大なわ集会、1年生の昔遊び、6年生の奉仕作業があった。来月は6年生を送る会がある。卒業式には、学校運営協議会委員の皆さんを来賓として招待する。

佐々木教諭：(奉仕作業について)

子どもたちの意見を聞いて行った。青健連さんの「おあしす看板」の制作やモフ(学校で飼育しているウサギ)の小屋づくり、鉄棒等の遊具のペンキ塗り、体育倉庫の掃除を行った。

(3) 防犯モデル地区事業について

阿部教諭：学校としてどのような取り組みに地域の方のご協力を得られるかを考えた(不審者対応訓練、見守り集団下校訓練、下校パトロール、避難所開設訓練)。親子の防災モデル隊を結成し、活動していく予定。

奥田教頭：2月13日に地域づくり課、各自治会長と会議を行い、実施要項の確認をした。目的の共有と具体的な手立てが重要になると考える。防犯モデル地区の期間は3年間であるが、持続して取り組めるものにしていく必要がある。

柳下委員：前の3年間は大谷自治会が防犯モデル地区だった。大谷地区は約7000世帯。東柏地区としては学区全体で取り組んでいく。防犯パトロールで共通のビブスを着ていただこうかと考えている。

(4) 児童会「やさしい心を広げよう」プロジェクトについて

小久保総括教諭：本校では道徳教育の研究をしている。道徳には、教科として授業で行うものと学校教育活動全体で行うものがある。各教科はもちろん、わずかな時間で子どもたちの心を育てるため、5~10分でできる取り組みを「やさしい心を広げようプロジェクト」として工夫して行ってきた。例えば、「5月の運動会準備に雨の中、地域の方が草刈りをしてくれたのはどうしてだろう。テント張りを手伝ってくれたのはどうしてだろう。皆は何ができるだろう。」と問いかけ、子どもたちと一緒に考えた。

植木教諭：スローガンである「やさしい心を広げよう」を意識して学校生活を送ることができるように標語を考え、校内に掲示した。今年度もあとわずかになったが、来年度も引き続き、ご協力をお願いしたい。

(運営委員会が作成した動画を視聴。標語と地域へのメッセージが共有された。)

芳賀委員長：子どもたちの言葉は立派だと感じた。来年度は児童会や運営委員会の児童がこの会に参加する、直接委員と話をする機会が実現したらいいなと考える。図書ボランティアさんがこの場にはいないが、朝の読み聞かせも心の教育に大きな影響があり、学校側もよく協力してくれるという話を聞いている。来年度も続けていってほしい。

橋本副委員長：目に見える形にすることは重要。「伝える」ことが大事で、大人か

ら導かれたいことが増える。こういう機会を大切にしてほしい。
小林校長：「みんな」で創りたい。行事はもちろんだが、協働的に「やさしい心を広げようプロジェクト」に関わっていただきたい。

(5) 学校評価について

- 奥田教頭：表が児童を対象にしたアンケート結果、裏が保護者対象のもの。
あいさつに関して、一昨年度、昨年度から高い水準でできている。児童会の取り組みや地域の方々のご協力（登下校の立哨や地域行事）、各家庭でのご支援が影響している。引き続き、ご協力をお願いしたい。「子どもは友だちとなかよく学校生活を送っているか」について、96%が「当てはまる」と回答。児童会でも取り組みで意識を高め、主体的になかよく過ごすことができるようにするにはどうしたらよいかを考えることができている。基本的な生活習慣に関する数値が高い。
- 佐藤孝男委員：「学校の授業がわかりやすい」の数値から、先生たちの教え方がいいのではないかと思う。素晴らしいこと。
- 工藤委員：友だちには挨拶できるが、先生にはできていない。イメージと逆で驚いた。誰にでもあいさつができるといいと思う。
- 瀬戸口委員：あそびっ子パートナーとして様子を見てみると、自分からすすんで宿題をしている。その数値が高いが、保護者の認識とは少し違うものがある。ゲームについても「時間を守れているか」についてズレがあるようだ。
- 橋本副委員長：「あいさつをする」に対して周囲のハードルを下げることはできないか。少し頭を下げるだけでも「あいさつができた」という思いをもたせ、あいさつができないと感じる子を0にしたい。
- 奥田教頭：「できる」「ふつう」「できない」の「ふつう」と回答している児童をどのように見取るかが大事。どちら寄りなのかを考えなくてはならない。
- 芳賀委員長：回収率に関して、紙ではなくスマートフォンでの実施の方が、年々数値が上がっている。

(6) 令和5年度 東柏ヶ谷小学校 学校運営基本方針について

- 小林校長：子ども、教員、地域の方々のことを考えて、どのようにグランドデザインとして絵にする、表現するか。ただ、スローガンは大事にしていきたい。みんなの合い言葉として私の経営方針が伝わるといいと感じている。皆さんと一緒に創っていく学校ってどんなものかを示していく必要がある。
- 来年度、職員に関しては、4グループ（校内研究、健康安全、児童支援理解、特色ある学校づくり）で考えている。委員の皆さんには学校

経営に対してご意見を頂ければと思う。

佐々木教諭：今年度は2グループ体制。話し合いをしなければならない案件が多いのが現状。分散することは教職員にとってはありがたいこと。ただ、共有に関しては密に行っていかなければならない。

長井委員：目標が多いので整理したほうがよい。ただ、どれも削除できない項目であることは理解できる。

橋本副委員長：ここに書かれていることはどれも大切なことであることは理解している。キーワードとして示すのはどうか。ただ、文字が多かったり、誰が仕事を担当しているかが分かりにくかったりする。学校のことをよく知らない人が見ても分かりやすいものはどうか。図を活用するなどの工夫が必要ではないか。

瀬戸口委員：スローガンを中心に、重点にしたいことを目立たせるなど、工夫して簡潔にまとめた方がよいのではないか。新年度になると、先生の入替わりがある。地域向けの広報だけではわかりにくい。コロナ禍もあり、先生方との接点もなくなっているからこそ共有したい。

高橋委員：今の教育に求められている内容や課題が多く挙げられている。例えば、道徳教育の推進では「やさしい心を広げよう」に取り組んでいる。取り組みの背景を明示しないと委員（保護者や地域住民）は判断ができない。達成できたこととできなかったこと、これからやっていきたいことなどをまとめる必要があり、そうすることでランドデザインの価値や重要性が分かる。学校や教職員が取り組んでいるかが記載されているかが大事だと考える。

小林校長：皆様のご意見をいただきながら、学校について考えていけることが嬉しいです。来年度、改めて示す。

(8) その他

来年度の学校運営協議会について

小林校長：資料にある日程は現在の案。4月に改めて文書を配付。

あそびっ子パートナーの募集について

瀬戸口委員：保護者向けの文書を配付したが、反応としては薄い現状にある。

各自治会の協力を得ながら、掲示板と回覧を活用して人員を確保していきたい。パートナーの人員が一定数集まらないと、放課後のあそびっ子を開催することができない。海老名市全体でも人財確保に苦労している現状。「パートナー」という表現も分かりにくいのか、という懸念もある。各自治会長への協力を依頼したい。

海老名市 CS 連絡会（2月4日）報告

東 教 諭：今泉小学校増築校舎にて各小中学校の委員が集まり、実施状況等を共有した。東柏小のこれまでの実績は他校のモデルになり得る点が多い。本校として、変わらず委員の皆様をはじめ、今日のような活発な意見交換をしたい。子どものことを中心に考える会議として充実させていきたい。

市民レクリエーションについて

小林 校長：このあとの会議（東柏ヶ谷小学校区連絡協議会）で各自治会長と協議する。

本日の総括

高橋 委員：環境教育について研究を進めた大学院生（中国の留学生）の話。

中国ではゴミ処理の問題で都市だけでなく郊外も大きな影響が出ている。ゴミ分別をさせなければ解決しないという問題意識がある。小学校でいえば、中国では日本同様、各教科等で環境教育を進めることになった。武蔵野市と西東京市のデータから、小学校6年生対象に「自らすすんで率先して掃除をする子」のデータが高いのは、「理科と算数が得意な子」というデータが出た。文系と美術系も含めて調査したが、「理科と算数が得意な子」はゴミへの意識や掃除へ取り組む気持ちは高い。自然体験や景観（自然、動物など）への興味を受け入れるかどうか、ごみ意識、環境意欲（自分から積極的に取り組む）について調査した。

自然の景観は自然体験と相関があるが、ごみ意識、環境意欲も高い。体験させているだけではなく、体験が自分のものになっているかどうか重要であるという自明な結果が出た。日本の学校教育は様々な視座や視点から、環境教育へアプローチしていること評価できる。

今年度の大学学部生（卒業生）は、1年生時は通常の学校生活だったが、それ以降はコロナ禍の中で過ごしたことになる。卒業を記念して行われる謝恩会に対して意欲が高くない。学生生活の中で友だちがいない。学校でなくアルバイト先に友だちができ、コミュニケーションを取る相手に変化がある。学校に所属感はあるが愛着はない。教員とのコンタクトも画面上だけで、親密度も低く関係性も薄いという現状。

その現状からわかることは、今の大学生にとって体験活動としての学生生活が十分でなかった。これまでの学習経験の中で、体験させ

ているだけでしかなく、自ら体験したいと思う学生が少なかったということ。つまり、CSがもつ役割は大きく、体験活動の大事さを本物の経験としてもつことができる。経験が子どもの心の中に残る体験や経験が必要。そういう活動の大切さを東柏から発信してほしい。東柏小が海老名市や全国のモデルになるように発展してほしい。

(9) おわりに（学校運営協議会副委員長）

橋本副委員長：多くの議題がありましたが、その中で「自己肯定感」という話があったが、とても大事だと考えている。自分の子育てを思い返すと、厳しくしすぎたかと反省することもある。ただ、地域の方々と交流することを通して、無条件に褒めてくれる、認めてくれる。その経験はとても嬉しいことだと思う。来年度も引き続き、そのような地域を創っていきたい。50周年も近づいているので、持続的な取り組みを考えることができればと思う。

次回の学校運営協議会は、令和5年4月14日（金）18：00から開催予定。